

プラスチックごみを考える学習会 ~プラごみの減らし方の提案~

主催：大阪府生活協同組合連合会・全大阪消費者団体連絡会・地球環境市民会議(CASA)

3月29日 会場参加 2名(大阪産業創造館) ウェブ参加 11名(枚方組合員会館ふくむ)



大阪府 環境農林水産部 環境管理室
環境保全課 環境計画グループ
総括主査 山本祐一さん(写真中央)

全大阪消費者団体連絡会(消団連)などが呼びかけている、プラスチックごみを考える学習会は今回で4回目。パルコープからも活動委員さんが参加しました。

まず、消団連・事務局次長の大森さんより、2020年6月から12月まで実施された「家庭のプラスチックごみ調べ」について最終報告があり、調査に寄せられた383名の声から見えてきたことを元に、プラスチックの減らし方の提案がありました。(下図参照)

声には、「やってみることで自分の中の意識は少なからず変わりました。こういったことを定期的にやっていたら、やがて日常化していく。それが多くの人に広がってほしいな」など、意識し続ける大切さや、「購入する際、プラスチック袋を断ることで意思表示していく」など消費者の意識を店側にアピールすることも提案されました。

大阪府環境管理室・総括主査の山本さんによる「大阪府が取り組む海洋プラスチックごみ対策」のお話では、大阪

湾に漂流しているごみの8割以上がプラスチック類で、年々深刻化していると言います。「2019年に大阪府で開催されたG20サミットに先立ち大阪府・大阪市が共同で宣言した『おおさかプラスチックごみゼロ宣言』を実施するため、マイクログラスチック実態調査・漂流ごみ調査と回収、府民のみなさんへの啓発活動、企業などと連携した取り組みも進めています」。

周知されつつあるマイバッグ以外にも、マイボトルの普及でプラスチックを減らす『おおさかマイボトルパートナーズ』の紹介もありましたので、一度ホームページをのぞいてみてくださいね。



Zoomの投票機能を使って、ウェブ参加者によるアンケートを実施。リアルタイムで、マイバッグの使用状況や生ごみ用の袋の使用状況を答える

プラごみの減らし方の提案

- ①自分のプラスチックごみを見つめる
- ②買わない/もらわない...余分なもの・使わないもの・すぐ捨ててしまうものは買わない、もらわないを一番に心がける
- ③選んで買う/変える...プラ以外もの・プラが少ないものを選ぶ基準のひとつに(いつもでなくても、3~4回に1回選ぶという方法も)。プラスチック減らしに努力する事業者を応援する
- ④再利用する
- ⑤分別・リサイクルする



←大阪府「おおさかマイボトルパートナーズ」のホームページはこちら
消団連「プラスチック調べ」のホームページはこちら→



ピースリレー 2021

~平和のおもいをつなげよう~

コロナ禍でのピースリレーの新しいカタチのひとつとして、今年はWEBでアピールしていきます。

地域の委員さんからの
ピースメッセージ



平和を願う気持ちは
みんな一緒やなあ!



LOVE & PEACE

※イメージ

詳しくは右記から特設ページに入ってね →



気候変動問題と、私たちにできること

個人宅からのウェブ参加 33名 DVD視聴参加 37名 (いずれも組合員活動委員)

2020年度
第3回
推進学習会
(2月17日)



土田さん

地球環境市民会議(CASA)の事務局で国際交渉担当もされている土田道代さんを招いてお話をお聞きしました。

気候変動問題に対処するための国際的な取り組みが開始されたのは、1980年代後半のことです。1994年に条約が発効したことを受け、1995年にCOP1が開催され、以降、1997年の京都議定書採択(COP3)、さらに2015年のパリ協定採択(COP21)を経て、今年2021年11月にはパリ協定の「実施ルール」を議論するCOP26がイギリスで開催されることになっています。

気候変動はいまや「気候危機」という認識が広がっています。パリ協定では、「世界の平均気温の上昇を工業化前に比べて2℃をはるかに下回る」ことを目標に掲げ、さらに「1.5℃を目指す」ことも努力目標に掲げられています。しかし、2018年に発表された科学の報告書は、現状のペースで排出が続けば、早ければ2030年頃に1.5℃上昇に到達するというシミュレーション結果を公表しています。現在、工業化前からの平均気温の上昇幅は約1℃とされていますが、わずか1℃の上昇であっても、世界中で記録的な猛暑や豪雨災害などが頻発していま

コップCOPって??

1992年、大気中の温室効果ガスの濃度を安定化させることを究極の目的とする「国連気候変動枠組条約」が採択され、地球温暖化対策に世界全体で取り組んでいくことを合意。同条約に基づき、国連気候変動枠組条約締約国会議(COP)が1995年からほぼ毎年開催されています。

す。そのなかには、研究によって、人為的な気温上昇がなければ発生しなかったと明らかになっているものもあります。異常気象の頻発のほかにも、地球温暖化の影響は、生態系への影響や、海面上昇・高潮、飲料水・灌漑用水の枯渇、食糧危機など、私たちの暮らしを取り巻く幅広い範囲に及び、私たちはその影響を被りながら暮らしているのです。

「持続可能な社会を作るのは私たちです。パリ協定で約束した気温目標に沿うように、各国が既存の排出削減目標を大幅に引き上げ、COP26までに国連に目標を提出することが重要です。科学は、世界の平均気温の上昇を1.5℃未満に抑えるには、2030年までの対策が決定的に重要だとしています。日本の政策や削減目標について注視し、政府任せにせず、市民が声を上げて世論を盛り上げていきましょう」と土田さん。気候変動問題も身近な事として捉えるために情報を収集したり、パブリックコメントで意見を提出したり、SNSで発信したりも自分ができるアクションとして紹介されました。

オンライン参加者募集

家庭でできる省エネ学習会

~2050年 CO2排出ゼロの実現に向けて~

参加費
無料

温暖化の現状とこのまま進めばどうなるのか、CO2の排出ゼロに向けてご家庭で具体的に何をすればどれだけ削減できるか、削減効果を考えながら家庭でできる省エネを考えます。今回はZoomを利用したオンライン学習会で、ご自宅から参加できます。気軽にご応募ください。

日時：6月28日(月) 10時~12時
定員：40名(応募多数の場合は抽選)
締め切り：5月14日(金)

※結果はハガキにて5月末までにご連絡します

①気候危機の現状と脱炭素社会の実現に向けて (30分)

講師 宮崎 学さん
NPO法人地球環境市民会議(CASA)

②家庭でできる省エネ~CO2排出ゼロに向けて~ (90分)

講師 鈴木 靖文さん
(ひのでやエコライフ研究所)

■申し込み方法 ホームページからの申し込みのみとさせていただきます。
ホームページの専用フォームより、下記の①~⑤を入力してお申し込みください。

①組合員名 ②組合員コード ③ご住所 ④電話番号 ⑤メールアドレス

■事前に確認・準備していただくことや問い合わせ先は、4ページ下の内容をご覧ください。

※応募で得た個人情報は学習会の企画案内以外には使用しません。

スマートフォンの方はこちらから→

